

ACO ふれいす事業所自己評価シート

職員による自己評価

実施：令和6年2月 回収5名

A環境面

1. 訓練室等スペース

100%確保されているとの評価だった。

2. 職員の配置数

40%が適切であるという評価だった。どちらともいえないが、60%であったが、足りない状況であれば他部署から来ていただくことで補えているという記述もあった。

3. 設備においてバリアフリー化の配慮

80%適切であるという評価だった。

B業務改善

4. 業務改善を進めるための参画

100%が評価していた。

5. 保護者の意向を把握し業務改善につなげているか

100%の評価だった。

6. 自己評価結果の公開

80%が適切に公開しているという評価だった。

7. 外部評価について、

60%が外部からの評価を業務改善につなげていると評価している。40%はどちらともいえないという回答であった。これは情報が周知されていないことが原因であると考えられる。

8. 研修の機会確保

100%が評価しており、研修により質の向上を図っている評価を得た。

C適切な支援の提供

9. 客観的分析による個別支援計画の作成

100%が適切にできているとの評価だった。

10. 標準化されたアセスメントツールの使用

100%が使用できていると評価している。

11. 活動プログラムの立案

100%がチームで行うことが出来ていると評価している。

12. 活動プログラムの工夫

100%が固定化しないよう工夫していると評価している。

13. 課題設定に応じた支援内容

100%が出来ていると評価している。

14. 子どもの状況に応じた支援計画の作成

100%が出来ていると評価している。

15. 支援開始前の打ち合わせ

100%が出来ていると評価している。

16. 支援終了時の振り返り

100%が出来ていると評価している。

17. 記録の徹底、支援の検証・改善

100%が出来ていると評価している。

18. 定期的なモニタリングによる個別支援計画の見直し

100%が出来ていると評価している。

19. ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせた支援

100%が出来ていると評価している。

D関係機関と保護者との連携

保護者による評価

実施：令和6年2月

回収61名

A環境面

1.活動のスペース確保

90%確保されているとの評価があった。

2.職員の専門性・配置数

75%が適切であるという評価を得られ、細やかな対応してもらっていると評価を得た。一方で15%が詳しくわからないという回答をしていた。

3.設備

バリアフリー化の配慮がされているとの評価は82%であった。詳しくわからないが13%だった。

B児童への支援内容

4.個別支援計画作成

客観的に作成され分かりやすく説明されているという評価が89%だった。

5.活動プログラムの工夫

85%工夫されているという評価であった。中高生を対象にした性教育プログラムは、特によかったとの意見があった。一方でイラスト付きの予定表がほしいとの要望もあった。

C事業所からの情報発信

6.利用者負担や支援内容の説明

89%が口頭で丁寧な説明やコードモンが活用できているという評価であった。特にコードモンの活用は高評価の意見が多かった。同時にアンケートや出欠表などもICT活用をしてほしいとの要望があった。

7.子どもの状況や発達課題での保護者との共通理解

89%できているという評価であった。意見の中には早急な対応に助かっているとの内容もあった。

8.保護者面談や育児相談の支援

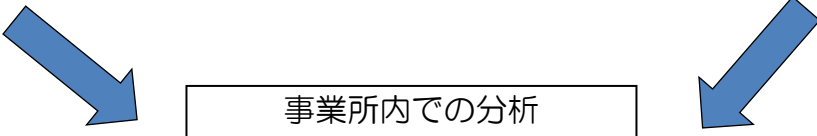
89%が適切に行われているという評価があった。訪問支援や検査結果のフィードバックの日程調整に関して要望を頂いた。

20. 相談支援のサービス担当会議への参画
80%が適切な人材が参画していると評価している。
21. 学校との情報共有、連絡調整
100%が適切に行っていると評価している。
22. 医療的ケアの子どもの受け入れ、主治医との連携体制
60%が適切にできていると評価している。これは医的ケア児が当事業所にいないことが関係していると考えられる評価である。
23. 就学前に利用していた幼稚園や保育園など、発達支援事業所との情報共有と相互理解
60%が出来ていると評価している。保護者経由での共有が多いことから、し切れていない部分もあるのではないかという記述があった。
24. 事業所を移行するときの情報提供
100%が出来ていると評価している。
25. 専門機関との連携や助言・研修の活用
80%が出来ていると評価している。
26. 障がいのない子どもとの交流
40%できていると評価している。保護者を含め、障害児通所支援事業のため、交流の機会が少ないことについては理解されている。
27. 地域自立支援協議会等への参加
100%が出来ていると評価している。
28. 利用者に関する保護者との共通理解
100%が出来ていると評価している。
29. ペアレントトレーニング等の保護者支援
100%が出来ていると評価している。
- E 保護者への説明責任**
30. 運営規定、支援内容、利用者負担額の説明
100%が丁寧な説明を行っていると評価がある。
31. 保護者からの相談対応の支援
100%が出来ていると評価している。
32. 保護者同士の連携の支援
100%が出来ていると評価している。
33. 苦情対応
100%ができていると評価している。
- 34.情報の発信
100%ができていると評価している。
- 35.個人情報への留意
80%ができていると評価している。
- 36.利用者への情報伝達の配慮
100%ができていると評価している。
- 37.地域住民との交流
どちらともいえないが 80%が多かった。こちらも障害児通所支援事業ということから、あまり交流の機会が少ない現状がある。
- 38.マニュアルの策定・周知
100%ができていると評価している。
- 39.非常時の訓練
100%ができていると評価している。
- 40.虐待防止への取り組み
100%ができていると評価している。
- 41.身体拘束の説明
100%ができていると評価している。
- 42.アレルギーの配慮
100%ができていると評価している。

- 9.保護者会など保護者同士の連携
67%の評価であり、どちらともいえないが 11%、詳しくわからないと答えた方が 16%であった。
- 10.苦情に対する対応
79%が適切に対応しているという評価である一方で 2%はどちらともいえない、18%が詳しく分からないとの評価であった。
- 11.意思疎通や情報伝達のための配慮
90%適切であるとの評価を得た。
12. 情報発信について
84%が適切であると評価している。
- 13.個人情報について
82%は十分に注意しているという評価であった。
- D 非常対応**
- 14.緊急時対応、防犯、感染症対応について、
82%が適切に対応していると評価している。
- 15.非常災害の訓練
75%が適切に行われていると評価している。

E 満足度

- 16.通所を楽しみにしている
評価は 67%であった。また、どちらともいえないという評価は 21%であった。意見の中には訓練要素があるため、楽しみという感覚は少なくなっているという話があった。
- 17.支援への満足
評価は 89%であった。放課後教室の支援による、送迎バスの運行時間などについての要望が多かった。



事業所内での分析

【共通点】

環境面：職員の専門性、スペースの確保についてはともに高い評価が多かった。施設のバリアフリー化についても支持を得られているが、引き続き進めていきたい。机や扉の老朽化、壁紙の張替えなども、徐々に進めていき、清潔で居心地の良い環境を維持していきたい。

児童への支援内容：職員・保護者ともに評価が高い内容が多かった。保護者からはプログラムの工夫や、支援員の見立てについて評価をいただくことが多かった。またトラブル時の対応の早さについても評価をいただいた。

事業所からの情報発信：保護者職員ともに高い評価を得ている。特にコドモンによるICT活用は一定の評価を得られている一方で、写真などをもう少しつけてほしいと言った要望も保護者からは見受けられた。プライバシー保護の観点から写真の掲示には慎重になっていたが、留意しながらも取り入れていきたいと思う。

非常対応：避難訓練などは実施をお知らせしても利用者が集まらない等、工夫が必要な点が見受けられた。

保護者への説明等：全体的に高評価ではあるものの、保護者同士の交流については他項目と比較して少ない数値となっている。学年に応じて保護者会の機会を分ける、また頻度を増やす等の工夫が必要であると考えられる。

分析・検討してみる…

事業所の強み

- 適切な支援の提供という点では、評価が高い。
- 設備環境等についても高評価を得られた。
- ICTを活用した情報共有は、高評価が多く、事業所としても運営しやすい。
- 保護者からの相談対応などの評価も高いため、利用児だけでなく家族も含めた支援ができていると考えられる。

事業所の改善点

- 職員の確保が困難なため、不足している分を補うため業務過多になっている。
- 保護者会や避難訓練などの周知が難しい。
- 非常時の対応について、避難所の確認や非常用品の点検など職員、利用者ともに確認をしていくこと。
- 広報誌など情報発信の機会を増やし、保護者や地域、他機関に事業所の取り組みを周知していく。

事業所の改善への取り組み

環境面：

- ① 清潔な状態を維持すること、補修や故障は速やかに修繕すること。

支援内容：

- ① 個別に状態や発達に合ったプログラムを提供していく。
- ② 小集団のプログラムでは仲間との協調性や適切な距離感などを伝えていく。
- ③ 保護者との面談で日頃の悩みや自宅での様子を聞き、支援に反映していく。

情報発信：

- ① SNS を有効活用できるよう所内で検討していく。
- ② オンラインでの連絡に関しては個人情報の取扱いに十分留意する。
- ③ 広報誌を発行し、外部に向けて ACO の取り組みを発信していく。

非常対応：

- ① 非常時の対応、マニュアルをすべての職員が把握し、対応を行えるよう内部研修を行う。
- ② 災害備蓄や避難場所の確認、スムーズな誘導が行えるよう避難訓練を行う。
- ③ 活動中の対応について保護者と事前の取り決めをしておき混乱の生じないよう対応する。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

基本的に支援内容に関しては職員・保護者ともに高評価であり、発達支援の内容は満足いただけていることが分かった。一方で、情報の発信などについては職員と利用者とのギャップのある評価になっており、こちらでは伝えていたつもりが、うまく周知されていなかったことが分かった。今後はどのような伝え方、周知の仕方が適しているのかを考えて、情報発信をしていきたいと思う。

事業所名 ACO 放課後等デイサービスふれいす

担当者：筒本 千文